

相変わらずの東電

写真は中日新聞 2月 25 日朝刊 1 面である。朝 6 時の NHK ニュースのトップで珍しく取りあげていたので、新聞各紙の紙面が気になった。なぜか朝日新聞の記事が小さかった。例の「バッシング」が影響しているのだろうか。

記事リードから。「東京電力が、福島第 1 原発の排水溝から高濃度の放射性物質を含む水が外洋に漏れ続けるのを放置していたことが分かった。外洋への継続的な漏出を昨年 4 月に把握しながら公表せず、排水溝を専用港内に付け替えるなどの対策も取っていなかった。」

写真地図のように 1~4 号機原子炉建屋のすぐ西側の K 排水路は外洋に通じている。2 号機原子炉建屋の屋上にたまっていた高濃度放射能汚染水が、この排水路を通じて外洋に流出していた。外洋につながる A 排水路付近などでも高濃度汚染水が検出されている。

東電は昨年 4 月までに流出を把握しながら、10 ヶ月にわたり公表せず、対策も取ってこなかった。東電の相変わらずの隠蔽・無責任体質にはあきれざるばかりだ。福島県漁業協同組合連合会は、外洋流出を隠していた東電との「信頼関係」は崩れたと批判する。安倍政権はこうした深刻な事態を見過ごして、あくまで強引に原発再稼働を推進するのか。安倍首相は東京五輪招致にあたり、福島原発は「アンダーコントロール」されている、と世界に公言した。汚染水は港湾内にとどまり、完全に「ブロック」され安心だと断言した。国会で野党議員に「ヤジ」を飛ばすのなら、今回の高濃度汚染水の外洋流出について、きちんと国内外に向けて説明してもらいたい。

過酷な福島原発事故から、まもなく 4 年が経過する。いまだ事故原因すら明らかにされていない。事故直後から、東電や政府は事故の真相を国民に知らせることに消極的であった。雑誌『世界』では 2015 年 2 月号から、原発事故を検証するうえで第 1 級の資料とされる「吉田調書」を様々な立場の専門家がそれぞれの視点から読み解く連載「解題 吉田調書」がスタートした。これを読むと、隠されてきた原発事故をめぐる問題が浮き彫りになってくる。



(2015 年 2 月 28 日)